



協会だより

Japan Tourism Facilities Association

No.75



3月

発行 / 社団法人国際観光施設協会
総務委員会
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋
2-8-5 多幸ビル九段2階
TEL03-3263-4844
FAX03-3263-4845

E-mail : kankou01@syd.odn.ne.jp
URL : <http://www.kankou-fa.jp>

2010年3月3日

22年度を迎えるにあたって

副会長 山方 茂利

寅年の今年こそ、明るい良い年にと近くの神社に初詣し、賽銭箱にピカピカの50円玉を三枚、三つの願いが叶うよう投げ入れスタートした2010年も、早くも3月を迎えて21年度最後の月となりました。

新年早々の1月4日に初代観光庁長官の本保芳明氏に代わり、2代目長官溝畑宏氏が就任されました。

昨年の政権交代後の前原国土交通大臣の所信表明やインタビュー等の会見で、「観光立国に向けて政策を必ず実現していく」と具体的に述べられ、我々観光に携わる国際観光施設協会の会員の一人として頼もしく思いました。2010年観光関連団体の賀詞交歓会で溝畑長官は「初代長官本保氏の方針をしっかりと引継ぎ、“日本の地域を元気にする”“訪日外国人三千万人の早期達成に向けて取り組む”等、前原国土交通大臣より託された使命を果たす」と、スポーツにも造詣が深い方だけに力強い前向きな発言を拝聴し、「これからの観光関連は希望が持てるぞ」と感じた次第です。

観光庁の主要事業の一つに「国際競争力の高い魅力ある観光地づくりの推進」があります。当協会においても事業のひとつに、観光地を訪ね地域の人達と情報交換し、知恵を出し合い、美しい国づくりを目指して立ち上げた“観光交流空間のまちづくり研究会”がありますが、実績を重ね定着しつつあります。

二つめの事業として、初めて2010年国際ホテル・レストラン・ショーにおいて企画実施した「エコ達人村」があります。セミナーの他、協会の設計関係ブー

ス、企業関係ブースを設けてエコに関する匠の知恵を出し、訪れられたホテル、旅館、レストランの事業者の方々に無料相談を実施いたしました。

上記の「まちづくり研究会」「エコ達人村」のほかにも年間を通し、施設見学、企業訪問、セミナーなど多数の事業を行っております。また、情報誌「観光施設」の中でも観光界の動きの情報を提供していますし、当協会のホームページを開けば、協会の動きは当然ですが、関連機関の情報も満載であります(例えば、観光庁をクリックすれば2010年現在の観光圏で魅力ある観光地づくり 観光圏整備計画作成地域16ヶ所などが閲覧できます)。

22年度は214の正会員、60社のマネジメント会員各社が、この様に発信される諸々の情報に注力し、その情報を持ち帰り、分析し、そして関連する各会員間でコミュニケーションを取り合い、ビジネスチャンスに結び付けて頂ければ幸いです。

さらに22年度は新公益法人移行の申請に向けて会員各位の意見を拝聴し、進路を決める年でもあります。移行準備委員会において、必要な定款の改正案として、事業目的や財務関係等含め検討を致しております。

協会の発展のために総務委員会、協会事務局と一緒に努力してまいります。会員各位の御理解と御協力をお願い申し上げます。

HOTERES JAPAN 2010 報告 常務理事 内川 正人

2010年第38回ホテル・レストランショーが2月23日～26日に開催され、不況といわれるなか、入場者総数87,355名(昨年86,710名)と、入場者数も昨年を僅かながら上回り、各会場とも大変な盛り上がりを見せて終ることができました。

今回は、地球温暖化が世界的に関心を招き、新政権もCO₂25%削減を打ち出し、改正省エネ法が施行されて、ホテル、旅館に何をもちが大きな問題になっており、関連業界の中に不安が広がっています。具体的にどのような事に疑問を持っているのか、ホテル、旅館の経営者からの相談を受けることを目的に「エコ達人村」を開設しました。

観光6団体に協力をお願いし、事前にエコ対策の疑問についてアンケートを実施しましたが、その内容を分類すると、どの分野が問題なのか、その改善費用はどのように対処したら良いのか、の2点が全体の75%を占めることが判明しました。

相談は予約制にし、24社のホテル、旅館関係者の来場を得ましたが、エコ、省エネ事業、新規商品等に積極的に取り組んでいる会員企業15社、設計事務所6社の協力を得て、各社のエコ技術、得意分野の相談を、時間をかけて対応していただき大変喜ばれました。

また、26日に「エコの考え方で水光熱費をガッチリ減らす」のタイトルで、パネルディスカッション方式のセミナーを開催、入場者約70名が熱心に聴講しておられました。

建築部会の活動報告とこれからの予定

建築部会長 森 一郎

会員の交流促進を図る目的で施設見学会セミナー等を企画しているが、グローバルな景気の動向もあり、新規見学適正施設がすくなく、また各参加企業においても参加費用の節約等活動は更なる工夫とアイデアが必要とされている状況といえよう。今年は1年分の予定を先行して設定をし実行に移す予定。4月は館林・芝桜の園、5月は横浜戸塚再開発と相鉄フレッズイン、6月は竹中・技研見学会、7月はスカイツリー見学会、9月は環状2号線開発計画、11月は武田製薬・免震工法見学、来年3月は神楽坂路地セミナー等を予定している。

設備部会の活動報告とこれからの予定

設備部会長 横山 豊

設備部会は一昨年度末に立ち上げた設備部会所属全会員参加による二つのワーキング・グループ(WG)を昨年度は6回開催しました。又東京ガス宇都宮のSUMIKA-Projectの施設見学会を開催しました。22年度はWGを引き続き3回程度開催する予定です。

保全WGはホテル・旅館の設備保全マニュアルを、観光施設夏号から数回に分けて順次発表する予定で、その準備、校正を行います。又環境WGは環境問題の研究を行います。その他幹事または会員会社の新製品見学研究会を持ち回りで行う予定です。まだ対象物件は未決定ですが施設見学会の開催を予定しています。また「ホテルズ2011」で行うエコ達人村の相談コーナーへの協力も行います。

インテリア部会の活動状況とこれからの予定

「会員による会員のための企画を」

インテリア部会長 佐藤英嗣

平成21年度は、施設見学会を3回開催「豪華客船ドーン・プリンセス」、「龍名館」、「庭のホテル」。新情報発信研究会を2回開催「臭いについて」、「水について」。セミナーは「堀木エリ子氏、久住有尾生氏」を講師として開催し、更に、企業見学会「住友3M」を開催予定です。

平成22年度もこの4グループの活動を基盤とし、会員皆様と企画の協議を通じた相互のコミュニケーション向上と、企画実行による最新の施設・情報・知識等の共有を推進し、観光施設及び観光施設協会の発展に寄与することを考えております。是非、企画段階の協議からご参加戴き、今我々が何を学び・実行すべきかのご意見を発信して下さい。

賀詞交歓会 報告

1月12日ホテルメトロポリタン・エドモントにおいて賀詞交歓会を開催、166名の会員が新年を寿ぎ相互の交流を深めあいました。

年頭にあたり、中山会長より「技術屋集団として今

年は旅館・ホテルの環境問題に注力し、ホテルズ2010においてエコ達人村の無料相談を今後5カ年の継続事業として取り組んでいく」旨の挨拶がありました。

新入会員紹介 (入会順)

[施工] 須賀工業株 (代表者) 代表取締役 (担当者) 執行役員副支社長 神木 宣夫 高橋 和仁 〒110-0005 東京都台東区上野5-18-10 TEL03-5688-8112 FAX03-5688-2836 業務内容: 総合設備工事業
[メカ] トキ・コーポレーション株 (代表者) 代表取締役社長 (担当者) 片方事業本部 副部長 時枝 直満 浅井 乙秀 〒143-0016 東京都大田区大森北3-43-15 TEL03-5763-6121 FAX03-5763-6130 業務内容: 照明器具の製造販売
[メカ] 東京電力株 (代表者) 空調・給湯普及推進G (担当者) 空調・給湯普及推進G グループマネージャー 芳野 恵一 課長代理 宮本 和弘 〒100-8560 東京都千代田区内幸町1-1-3 TEL03-6373-5769 FAX03-3596-8519 業務内容: 電力事業
[メカ] 株アップルワールド (代表者) 代表取締役社長 (担当者) 企画販売部やど物語グループ 竹中 公道 係長 加賀見 修 〒171-0021 東京都豊島区西池袋1-11-1 TEL03-3980-7386 FAX03-3980-3125 業務内容: 旅行業

交流部会第96回「ゴルフ会」ご案内

春のゴルフ会は5月13日(木)におおむらさきGC(関越・東松山ICから7分)にて行います。概算費用は約18,000円(キャディ付プレー・昼食込・会費別)です。多くの皆様の参加をお願い致します。

カメラ倶楽部主催「お花見」のお知らせ

春うらら、お花見に行きましょう。都内第二の古刹深大寺と神代植物園を散策します。神代植物園はこの時期、サクラのほか、ツツジ、フジ、ハナミズキなど春の花々が楽しめます。食事は名高い深大寺蕎麦を賞味したいと思います。

期日 平成22年4月17日(土曜日)

詳細は後日お知らせいたします。

♥編集後記♥

平成20年12月1日に新しい公益法人制度が施行されてから、早くも二年目に入りました。移行期限までまだ期間があるものの、今年は協会の移行準備をより具体的に進めることが必要かと思えます。定款のこと、事業仕分けのこと、会計のことなど、各々について、新しい制度に向けた修正が必要になるようです。これまでの事業を積極的に進めながら、併わせてこれらの準備も積極的に進めてまいりたいと思えます。Y.K